

最優秀賞



油井 凜香 (ゆい りんか) 長池小 3年生

作品名:「さいこうのスパイス」を読んで

図 書:さいこうのスパイス

わたしは、お母さんの作るごはんが大好きです。毎日、毎日わたしたちのために、りょう理を作ってくれるお母さんは、わがやのシェフです。

でも、この物語にでてくるリスのぼっちゃんは今までいろいろなシェフがどんなにおいしいりょう理を作っても「まずい」としか言いません。しかもリスのぼっちゃんのおやしきは世かい中の一級品の食ざいもそろっています。そんなとき次にたのまれてやって来たのが森の動物たちに大人気のオオカミのシェフです。オオカミはタンポポサラダ、どんぐりのグラタンや木いちごのジュースなど作ってあげました。でも、やっぱり食べたあとは「まずい」と言います。それから毎日夕ごはんを作ってあげたけど、やっぱり「まずい」としか言いませんでした。こまったオオカミは山にまぼろしの「おいし草」をとりに行ったけど山からおちてしまいました。そんな時友だちのクマ君がたすけてくれてオオカミにごはんを作ってくれました。その時オオカミは本当においしいりょう理を作るのに大切なことは食ざいじゃなくて「あったかい心」だときづきぼっちゃんの心もあったかくしてあげました。ぼっちゃんは「おいしかった」と言ってもとても楽しい夕ごはんをすごしました。

わたしは、始めリスのぼっちゃんはなんてワガママなんだろうって思いました。せっかく作ってくれたのに「まずい」なんてしんじられませんでした。

でも本当はお父さんもお母さんも仕事で家にいなくて、いつも大きなおやしきで一人でごはんだからさみしくておいしく感じなかったことが、とてもかわいそうでした。だからぼっちゃんがオオカミやしつじといろいろな話をしてくさんわらいながら「おいしかった」と言った時はわたしもとってもうれしかったです。

わたしには、いつも家ぞくがそばにいるからいっしょに遊んで、ときどきけんかしてみんなでごはんを食べます。だからいつも「おいしい」って思います。わたしはそのことがすごく幸せなことだと思いました。

いつかわたしが大きくなってりょう理を作る時は「あったかい心」のスパイスをいっぱい使って人の心もあったかくしてあげられるようなりょう理を作ってあげたいです。